

## 議員定数検討会記録

開会年月日	令和2年5月25日
開会時刻	午前10時00分
閉会時刻	午前10時22分
出席委員名	◎上村和生    ○久保 真    鈴木豊司    野崎隆太
	小山 敏    浜口和久
欠席委員名	—
署名者	—
担当書記	中野 諭
審査案件	議員定数について
	今後の日程について
説明者	

## ☆協議の経過並びに概要

### ◎上村和生会長

ただいまから議員定数検討会を開会いたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立いたしております。

それでは、本日御協議願います案件は「議員定数について」でございます。

前回の会議では事務局作成の資料を配付させていただき、説明と各委員から御意見をいただきました。そして、また各会派へ持ち帰り御議論いただくことということでございました。

今回は、鈴木委員から資料の提供がございましたので、鈴木委員から資料の説明及び御意見をいただいた後、各委員から意見をいただき、議論を進めていければというふうに思っております。

それでは最初にですね、鈴木委員のほうから、前回ありました5,000人とその定義はどうかという意見があったと思いますので、その辺も含めてですね、御意見をいただきたいと思っております。

鈴木委員。

### ○鈴木豊司委員

私は前回同様ですね、議員一人当たりの市民の割合を5,000人ということを目安にしまして1名の減、25名、それから奇数で不都合であれば、2名減の24名を提案をさせていただきたいと思っております。

前回の検討会で5,000人の根拠を示せということでございましたので、合併以降の議員定数の推移ということでまとめてきております。

当初合併時にですね、法定定数上限の34人で普通選挙を実施してもらっております。

その4年後、平成21年の改正のときには6名減の28名ということで、このときに市民の割合は4,839人ということでございます。

それから3番目です。平成25年の改選時は28名をそのまま維持したわけですが、このときは、その前期の4年間で人口の減少が2,608人と、非常に幅が小さかったので現状維持になったかなというようなことで勝手に推測をしております。

それからその次の4年後、平成29年の改選時には2名減の26名ということでございます。

この4年間で3,546人の減少を見たわけですが、前期と合わせますと6,154人の人口減ということになってまいりまして、このとき26名では、議員一人当たり4,975人ということになっております。

ちなみにですが、このときに松阪市が5,996人、桑名市が5,503人と、両市に比べれば少ないわけですが、類似団体と比較いたしますと近い数字になっておるのかなというふうに思っておるんです。

そのようなことですね、5,000人の根拠ということにつきましては、これまでの推移、それから松阪市、桑名市、類似団体の状況を踏まえて、議員一人当たり5,000人程度が妥当ではないかなということで判断をしておるものであります。

今回は先ほど言わせてもらいましたように1名減の25人、それから25という奇数で不都合があれば、偶数となります2名減の24を提案させていただきたいと思っております。

25名の場合は5,001人、24名になっても5,210人となるわけですが、これは松阪、桑名に比べましてまだまだ少ないという状況になっております。

以上が、5,000人の根拠ということで、自分の考えを示させていただきました。

#### ◎上村和生会長

はい、ありがとうございます。

次にですね、浜口委員お願いします。

#### ○浜口和久委員

私も、この間資料をいただきまして、この資料で、会派の中で話はしていなかったもので、前回のここでの皆さんの考えを元に報告をさせていただきました。

それとこの資料を見てなんですが、大体県内他市との比較というふうなところで一番近いところが桑名の部分でございます。ここが26名ということで、次に伊勢市があつて、その下には伊賀、名張、志摩と10万人を割ってきておるようなところがあるわけですが、ここは下に米印がありますような形で、2名ずつ減らすような、尾鷲は3名ですね、減らすような形で議会へ改正案を提出するというふうなことになるっております。

そういった中で皆さんと話をさせていただきました。

今現在、このとき、令和元年7月1日現在なんですが、人口が12万5,932人、しかしながらですね、この4月末現在で12万4,933人というふうな形で1,000人ばかり、900人強かな、減っておるんで、大体今のところは月100人ぐらい減っていくというふうな状況で、今現在の4月末

で12万5,000人を下回っておると。

そして、令和3年10月ですね、改選期になりますと、これからまだ18カ月ぐらいあるかなというふうなことで、今のところずっと減っていく、人口が減っていく可能性が大きいなというところでございまして、令和7年、その次の選挙になりますと大体12万ぐらいになっていくのと違うかなというふうな形でございまして、次の令和3年の選挙に当たりましては、この表で桑名の下で、桑名が26、これが14万2,000人、これも減っていると思いますが、14万少しあって、伊勢市は12万5,000人を割っていったというふうな状況も鑑みて、私どもでは最終的に24人というふうなことで協議をして結論が出ました。

◎上村和生会長

ありがとうございます。

次に、野崎委員お願いします。

○野崎隆太委員

僕、最後でいいですよ。もしあれでしたら。

◎上村和生会長

次に、小山委員お願いします。

○小山敏委員

私の持論なんですけど、議員は住民の5,000人当たり一人、5,000人につき一人というふうな、私の勝手な物差しを持っておりまして、前回発表をさせていただいたときには12万5,000人を若干上回っておりましたので1名減ということで、そうしますと25になって奇数が望ましくない、偶数のほうがいいと言うんであれば24というふうなことであったんですが、この人口の推移を見ますと、資料がついてはいるんですが、これでいくと確実に浜口委員が言われましたように12万5,000人を割り込んでいるということになりますと、5,000人単位でいきますと、2名減の24ということになりますので、今回私は、マイナス2の24ということでさせていただきます。

◎上村和生会長

副会長。

○久保真副会長

事務局からの資料とか鈴木委員からの報告を見せていただいて、会派でもいろいろと検討させていただきました。

浜口委員のおっしゃるとおりですね、年間に約千人ずつ人口が減少していくということを踏まえて、うちの会派で検討させていただいた結果、今の定数26からマイナス2の24人ということで話がまとまりましたので、それを報告させていただきます。

◎上村和生会長

私からしますか、野崎委員からしますか。

野崎委員。

○野崎隆太委員

今、これ5,000人の根拠の話をされとるということで話ですけど、全体的話をしてよろしいですか。

でしたらまずですね、人口は皆さんのおっしゃるとおり下がっているのは間違いのない話でございます。

しかしながら、今本来の世の中の流れからすると、地方分権一括推進法が施行されてからですね、伊勢市の予算自体は前も言ったとおり、僕が議員になってから1.5倍とっていいですか、400億ちょっとぐらいのものからも500億を超えているのが、常に超えている状況で、今年はいレギュラーがあったとはいえ600億を超えている状況でございます。

そういったことを考えてもですね、単に人口だけで話をするのはいささか違うのではないかなと思っております。それは当然、人口に関して言えば、今皆さんのおっしゃったとおりであると思っております。

もう一つは、今、4方からお話がありましたけども、議会というのは、本来住民の福祉をどうやって向上するのかっていうのが目的であるはずにもかかわらず、やっぱりその部分の意見が何も議論されないまま数字だけが出てくるというのは僕は違うんじゃないかなと。

減少させることが何で住民の福祉の向上であるとか、市民の多様な意見を取り入れることにつながるのかをぜひとも御議論をされるべきじゃないかなと。

先に数字に行くのは、そもそも結論ありきで話をしているだけで、何のためにするのかというのが根本的に話されないままされる会議というのはちょっといささかどうかなと思っております。

先ほど言った、その人口とかが下がっているのだから下げるという意見自体は理解をさせていただくんですけども、当然さっき言ったように、予算書上の審査項目であるとか費用であるとかそういったもの、予算というものはすべて上がっているのだから、それを勘案せずに24というのはいかなるものかなど。

かといって予算が上がっているから増やそうという議論も、当然それだけでいいのかというのは当たり前の話なので、それはそのような話をすれば現状維持で、あともう一つは、先ほど言った今回この会議の中では、減が何で住民の福祉の向上につながるのか、多様な意見を取り入れるために減が何でそれにつながるのかというのはきちっとお話をすべきじゃないかなと思います。

◎上村和生会長

ありがとうございます。

私どもの会派でもいろいろと議論をさせていただきました。

野崎委員の言われましたように福祉の向上等々の話もありますし、議会の持つ使命でもありますけども、監視監督する機能ということからすると、やはり少ないより多いほうがいいというふうな、前回も同じようなことを言わさしていただいたと思いますけど。もちろん人口減少のところも視野に入れながらやっていかないとというふうに私ところの中ではいろいろと議論をさせていただいたところですが、やはり今のところでは、他市の状況も類似の資料でも見させてもらってもそんなということもありますので、現状維持が正しいんじゃないかということで会派としては方向付けをさせていただいたところでございます。

◎上村和生会長

皆さんからいろいろと、各会派の意見が出たわけでありまして、そのことに対しまして、皆さん何かありましたらどうでしょうか。

何かあるんでしたら、鈴木委員。

○鈴木豊司委員

うちの部屋で会派だと公明党さんと日本共産党さんがみえるんですけど、一応意見だけ聞いてきております。

公明党さんにつきましては、市民の声として減らせという声があんまり聞こえて来ないので、必ずしも今減らす必要はないんじゃないか

と。ただ、減らす方向であれば2名減という話がありました。

そんな中で公明党さんからのお願いごとなんですが、今、交渉会派の要件が3人ということになっておるんですが、その辺を緩和していただいて、2名にはならないでしょうかというような話がありました。

それから、日本共産党ですが、こちらは現状維持ということで、現在の26人があってもですね、市民一人当たりの割合というのが4,800人程度で、あまり緊急性が感じられないという、そんなお話でありました。

#### ◎上村和生会長

公明党さん、日本共産党さんの意見も出していただいたのですが、それから交渉会派という話がありましたけれども、会派として、それはここではすいませんがちょっと違うと思いますので、また違う場でちょっと議論をいただきたいというふうに思いますので、その辺はお願いしたいと思います。もちろんですね、小山さんとこと鈴木さんについてはですね、同じ部屋の中の意見をまとめるということになるとなかなかそれは大変なことかというふうに思いますので、参考意見とさせていただきたいというふうに思います。ありがとうございます。

このことを皆さんがいろいろ意見を出されたんですけれども、何かこのことについて私はこう思う等とかあったらですね、この場でお願ひしたいなというふうに思いますがどうでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。発言もないというふうなことでありますので、各委員の皆さんから意見を確認しましたけれども、議員定数は現状維持または削減という意見であり、議員定数を増やすという意見はございませんでしたので、このことから最終の報告書にも議員定数増の記述はしないということでいかがでしょうか。

御発言がありましたら、よろしいですか。その辺よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

#### ◎上村和生会長

御発言もないようでありますので、お諮りいたします。

議員定数増に関する意見は最終報告書へ記述しないことといたしまして御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎上村和生会長

御異議なしと認めます。

そのように取り計らいさせていただきます。

また本日の議論の結果を持ち帰っていただき、再度御議論の上、次回の会議で議員定数に関する意見をいただきたいというふうに思いますので、次回は報告書作成を視野に入れた上です、議論を進めたいと思いますので、よろしくお願いします。

またですね、いろんな資料等、必要であるならばですね、事務局並びに私のほうまでお願いしたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

ちょっと事務局、各皆さんから出た意見だけちょっとまとめていただいております。

次に、「今後の日程」でございますが、次回の開催は来月下旬とし、日程が決まり次第、改めて御連絡を申し上げたいと思いますが、6月の22の週ぐらいでどうですかね、ちょうど6月議会、定例会中の会議が終わってからでいいですか、その辺でやらせていただくということ。

6月22の週で開催させていただきたいというふうに思いますので、よろしくお願いします。

以上で議員定数検討会を閉会いたします。

どうもありがとうございます。

(閉会 午前 10 時 22 分)